

言憎きゆへに名づけたり、古歌に

あづまにてやしなはれたる人の子は玄たゞみてこそものはいひけれ

〔本朝食鑑十〕錦沙子 ○中略 古

集解、殼似蠣牛而厚堅、旋文、五色如錦、殼中有蟲、如寄居蟲。今江東諸濱最多、然不過杏子榛實之大、參遠海濱之產者似文蛤小蜊之大、俱海人采之煮熟而去蟲取殼洗淨磨砂、以爲兒女之翫。

〔令義解三賦役〕凡調略 ○中正丁一人、絹絶八尺五寸 ○中若輸雜物者、略 ○中海細螺一石、

〔日本書紀神武〕戊午年十月癸巳朔、擊八十梟帥於國見丘、破斬之。是役也、天皇志存必克、乃爲御謠之曰、伽牟加筮能、伊齊能于瀨能、於費異之珥夜、異波臂茂等倍屢之多、儂瀨能之多、儂瀨能阿誤豫、豫之多太瀨能異波比茂等倍離于智氏之夜莽務于智氏之夜莽務。

〔播磨風土記 播保郡〕少宅里里 ○中略 細螺川、所以稱細螺川者、百姓爲田闢溝、細螺多在此溝、後終

成川故白細螺川、

〔萬葉集十六〕有由縁雜歌能登國歌三首 ○二首略

所聞多禰乃机之島能小螺乎、伊拾來而石以都追伎破夫利早川爾洗濯辛鹽爾古胡登毛美高杯爾盛机爾立而母爾奉都也、目豆兒乃負、父爾獻都也、身女兒乃負、

〔延喜式七〕祚大嘗祭阿波國所獻 ○中細螺棘甲羸石華等并甘堵已上那賀潛

〔類聚雜要抄〕一母屋大饗

同饗應差圖

小羸子

〔朝倉亭御成記〕二獻 玄たゞみ ○下略

〔房總志料四上總附錄〕一長柄郡の海錦砂子を産す、女兒の輩つゝなごといへるものなり又なんごともいふ、大鏡にらんご、貝おほひとあるも是なり、又いしなご西行の歌にもよめり、其最小なる